

こんにちは。
町長です。



SDGs (持続可能な開発目標) について

最近、SDGs (エスディー
ジーズ) という言葉をよく耳にす
ることがあると思います。これは
Sustainable Development
Goalsの英語の頭文字からの
略称です。

SDGsは「持続可能な開発目標」と訳され、2015年
9月に国連に加盟するすべての国が賛同して採択され
た、世界が持続可能な社会となるために2030年まで
に達成を目指す17分野の目標です。

17の分野目標には、「貧困をなくそう」、「飢餓をゼロ
に」、「すべての人に健康と福祉を」、「質の高い教育を
みんなに」、「ジェンダー平等を実現しよう」、「安全な
水とトイレを世界に」、「エネルギーをみんなに、そしてク
リーンに」などが設定されています。すべて切実な課題、
目標であり世界全体で取り組んでいかねばならないも
のだと思います。

また、その達成目標の根底にあるのは我々が住む地
球の環境問題です。温室効果ガスなどの影響による気
候変動は多発する豪雨や台風などの自然災害を発生
させ、人類の存亡を左右する脅威となっています。この
目標を達成するためには、地球環境が守られ、将来に
向け持続可能な社会経済活動を営まなければなりません。

更に、その実現には国連加盟の国政府だけでなく、
その国民や企業などあらゆる社会の構成員が目標を
理解し、その実現に向けた行動をスタートしなければ到
達は困難であります。

小鹿野町としても、この目標達成のために努力をし
ていかねばならないため、町が取り組むあらゆる施策に
このSDGsの理念を取り込み、その施策を実施するこ
とにより、SDGsの目標のひとつである「住み続けられ
るまちづくり」を実現して行きたいと存じます。

今、町は少子高齢化の高波に襲われており、この厳
しい現実に向き合いながら、持続可能なまちとして生き
残る道を歩まなければなりません。それには、将来を予
測する中で、目標となるような状態、ありたい姿、あるべ
き姿を想定して、そこを起点に現在を振り返って今何を
なすべきかを考える方法、いわば未来からの発想法
(バックキャスト)が求められると思います。

埼玉県でも県が中心となり「ワンチームで埼玉版
SDGsを推進する」目的に賛同する企業、団体、自治体
(小鹿野町も含む)等が加盟する「埼玉県SDGs官民
連携プラットフォーム」を立ち上げ、去る10月23日に推
進宣言を行い「誰一人取り残さない」というSDGsの
理念のもと「持続可能な発展・成長する社会」を目指し、
「ワンチーム埼玉」で埼玉版SDGsを推進し、未来への
責任を果たしていくこととなりました。

小鹿野町長 森 真太郎